

## 会長就任ご挨拶

一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会  
会長 堀 秀充



新会長 堀 秀充

日頃は当協会に多大なるご指導、ご支援をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

2022年6月9日の定時総会・臨時理事会で会長を拝命いたしました。

昨今の新型コロナウイルス感染症は我々の生活スタイルを大きく変えただけでなく、ビジネス面も含めパラダイムシフトを引き起こしました。この変化は不可逆的なものでありますので、ウイズコロナ、アフターコロナの新しい生活様式、市場環境が複雑で将来の予測が困難な時代に合わせた変化への対応と新たな価値創造が重要となってきております。

また感染症はグローバルサプライチェーンにも大きな影響を与えています。昨年はウッドショックが起これ住宅産業は大きな影響を受けました。今年はウクライナ情勢の影響で建材・住宅設備の原材料は高騰し、業況への影響が顕在化するとともに、先行きの不確実性も増しています。

このような市場環境のもと、建材・住宅設備産業のサプライチェーンは様々な課題に直面しています。適正取引に向けて自主行動計画の普及啓発を行い、建材・住宅設備を扱う流通事業者など取引先事業者とのパートナーシップを強め、共存共栄を図ってまいります。物流面では、建材・住宅設備サプライチェーン効率化に向けた2030年までのアクションプランが、今年3月に取りまとめられました。今後、サプライチェーンでの情報・業務連携や共同配送などの取組が求められています。また、こうしたサプライチェーンが抱える課題への対応に当たり、デジタル技術の活用は有効なツールであり、住宅・建設業界としてもDX（デジタルトランスフォーメーション）が重要になっています。

また、わが国はカーボンニュートラルに向けて大きく舵を切りました。住宅・建築物分野においても省エネ基準適合義務化など次々と政策が打ち出されていますが、ウクライナ情勢、電力需給のひっ迫などにより、この課題はより喫緊のものとなっています。建材・住宅設備産業として率先してカーボンニュートラルに貢献できるよう取り組んでまいります。

こうしたことを踏まえ、2022年度は、7つの重点課題に取り組んでまいります。

一つ目は、経済産業省の委託事業である「グリーン建材・設備製品に関する国際標準化」については、現行事業の終期を迎えますが、次のフェーズに移行すべく準備を進め、国際標準の開発やアジア諸国との国際交流に取り組みます。

二つ目は、同じく経済産業省の委託事業である「人とIoT住宅との協調安全」の国際標準化を新規テーマとして着手いたします。

三つ目は、リフォーム推進事業です。「健康に資する建材・設備」に関する基準を作成するとともに、関係省庁に対して、リフォームの政策提言・運用改善の要望活動を行います。

四つ目は、情報提供活動です。建材・住宅設備のデジタルカタログサイト「カタラボ」については、概要説明ページを活用した PR 活動を積極的に行い、会員企業拡大に向けた取組を推進いたします。

五つ目は、ZEH・断熱材の普及促進事業です。今後も継続して「ZEH のつくり方」テキストを活用し、関連団体とも連携しながら普及活動に注力してまいります。また、断熱リフォームの広報ツールを活用し普及活動を展開いたします。

六つ目は、品質・環境事業です。ホルムアルデヒド、VOC、抗菌製品、調湿建材の審査・登録制度を運営するとともに、直面する環境課題に関する情報収集・発信に努めてまいります。

最後に七つ目として、新たな業界ニーズへの対応です。

昨年度より取り組んでおります建築 BIM では、製品別の課題整理、対応検討を行い、国土交通省の建築 BIM 推進会議・部会に参画し、業界意見の反映に努めます。物流の課題についても、2030年までのアクションプランの実行に対応する予定です。また、収益の柱となる新たな事業テーマについても関係委員会・部会等で検討してまいります。

当協会は、このような活動を通じて、今年度も業界・団体のさらなる発展に貢献してまいります所存でございます。

引き続き、皆様のご支援・ご協力のほど、何卒よろしく願いいたします。